



“By Love Serve”

名古屋柳城短期大学

# ちゃべるにゅーす

第 32 号 2019 年 4 月 5 日



## 2019 年度 年間聖句

若者よ、お前の若さを喜ぶがよい。青年時代を楽しく過ごせ。  
青春の日々にこそ、お前の創造主に心を留めよ。

【コヘレトの言葉 11:9 12:1】

立教学院諸聖徒礼拝堂（立教大学池袋キャンパス）

## 立教大学のチャペルに行ってきました

2019 年 3 月 11 日——

東日本大震災からちょうど 8 年が経つこの日、私たち学生 4 名は、2 名の教職員の引率のもと、東京都豊島区にある立教大学池袋キャンパスを訪れました。この訪問には 2 つの目的がありました。第 1 に、東日本大震災を覚え、特別な祈りの時を持つこと。第 2 に、名古屋柳城短期大学と同じ日本聖公会に連なる立教大学の学生と、私たち柳城の学生とのこれからの交流がより豊かなものになるように第一歩を踏み出すことです。

（保育専攻 佐藤愛結美）



## 立教大学キャンパス・ビジット

～聖公会関係大学間の豊かな学生間交流に向けて～

2011年3月11日当時、私は中学生で、地震が発生したその時は学校の武道館で1年を締めくくる学年集会に出席していました。「これは地震だ」と分かったときには地鳴りの音とともに武道館の扉や窓、照明などが大きく揺れ出していたのを今でも覚えています。衝撃でした。帰宅してテレビをつけると、流れてきたのは津波の映像、そして地震が発生した場所のはるか遠い東北地方の沖であるという情報。言葉にできない恐怖を感じました。

当時のことを改めて思い出し、この震災では地震の直接的な被災のみならず原発事故や津波などによる死者や行方不明者が多く、今も避難生活を余儀なくされている方もいること、やむを得ず故郷を離れて新たな土地で1から歩みだしている方もいることを覚えて礼りを捧げました。



立教学院諸聖徒礼拝堂（立教大学池袋キャンパス）にて

礼拝でのチャプレンのお話の中で印象的だったのは、被災していない、支援する側である私たちにとって大事なものは「相手にとって嫌なことはしない」というお話でした。立教大学では震災から8年たった今でも毎年被災地を訪れ、ボランティア活動を行っているそうです。その活動も「また来てください」という言葉や、「来てもらえることで（震災があったことを）忘れられていないと感じられる」という言葉があるから成り立っているのだそうです。もし、「もう、そっとしておいてください」と、そう言われれば、訪問するのはやめる。それは、もちろん見放すという意味ではありません。このお話を聞いたとき、誰もが皆、支援されることを心から嬉しく思うわけではない、ということに気づかされました。支援する側にとっては忘れてはいけない出来事であり、被災された方にとっては忘れられない出来事でもあります。また、忘れてはいけないと思う人々の中には、あまりに悲しいので忘れてしまいたいと思っている人もいます。その人にとっては、支援する側が良

かれと思って行っている行動や活動が、かえって大きな傷の上にやっと出来てきたかさぶたを無理に剥がすような痛みや苦しみを与えてしまうことになりかねません。あの震災はそれほど深く強く、日本の大地や人々に傷を残した出来事であったのだと感じました。同時に、自分たちが一方的に行うものは支援ではなく、相手が喜んでいことが確認できて初めて支援になるということが分かりました。

礼拝後には、今後、学生間交流で何ができるのか、思いを巡らせながら、立教大学の敷地内の散策や立教学院展示館、図書館の見学をしました。訪問した学生4人それぞれが様々なアイデアを思い浮かべています。そのアイデアを共有しながら形にし、将来の学生間交流を豊かなものにしていくという第2の目的を最後まで果たしていきたいです。

私たち4人を含む柳城のサークル「チーム・パティシエ」では、月に一度、被災地の福島県新地町で開かれている茶話会に手作りのケーキを送るという活動を6年間続けています。今回の立教大学キャンパス・ビジットにも、新地町の茶話会に送ったものと同じケーキを持参し、立教大学チャペル団体の学生代表の方にお渡ししました。被災地にケーキを送ると、感想とともに「ありがとう」という感謝の気持ちが綴られたハガキが届きます。相手が喜ぶことをして初めて支援になるという礼拝でのお話を通して、毎月被災地から温かいお礼状をいただいていたこのケーキ・ボランティアの活動も、喜んでくださる相手がいるかぎり続けていこうという強い気持ちをもつことができました。



チーム・パティシエのケーキ作り



被災地に送るケーキ

この立教大学の訪問は、東日本大震災の当時を振り返り、現在の被災地の方々に改めて思いを馳せるとともに、自分自身を見つめ直す機会にもなりました。今回の立教大学の訪問を準備し当日の歓迎や案内をしてくださった双方の教職員の皆様に感謝いたします。

（2019.3.11 保育専攻 佐藤愛結美）



2019年4月5日発行  
ちゃべるにゅーす 第32号  
発行所：名古屋柳城短期大学  
名古屋市昭和区明月町2-54  
発行者：キリスト教センター  
編集担当：村田康常

礼拝後、チャペルを見学しました